

血栓症

英語名 : Thrombosis

同義語 : 血栓、血栓塞栓症、塞栓症、梗塞
(脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓、深部静脈血栓症)

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

血のかたまり（けっせん血栓）が血管に突然つまることによって起きる「けっせんしょう血栓症」は、医薬品によって引き起こされる場合もあります。

何らかのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」、「胸の痛み」、「呼吸困難」、
「片方の足の急激な痛みや腫れ」

1. けっせんしょう血栓症とは？

血栓症とは、血のかたまり（血栓）で血管が突然つまる病気です。どこの血管がつまるかによって、のうこうそく脳梗塞、しんきんこうそく心筋梗塞、はいそくせん肺塞栓、しんぶじょうみやく深部静脈

けっせんしょう

血栓症など病名が変わってきます。症状は、どこの血管がつまるかによって変わりますが、ほとんど何の前触れもなく突然発症することが共通した特徴です。脳梗塞では、「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」といった症状、心筋梗塞や肺塞栓では「胸の痛み」や「呼吸困難」、深部静脈血栓症では「片方の足の急激な痛みや腫れ」がみられます。また、腎臓にできた血栓で腎不全になる場合もあります。

女性ホルモンや副腎皮質ステロイド薬、止血剤、白血病治療薬などの医薬品の服用によりみられることがあります。手術（特に足の整形外科手術、産婦人科手術）後に、深部静脈血栓症や肺塞栓を発症して、急変することがあることも知っておく必要があります。

2. 早期発見と早期対応のポイント

「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」、「胸の痛み」、「呼吸困難」、「片方の足の急激な痛みや腫れ」といった症状が見られた場合で医薬品を服用している場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

突然発症するため早期発見はなかなか難しいのですが、急激な病状の変化がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師、薬剤師に連絡してください。なお、深部静脈血栓症では、その血栓の一部がはがれて肺に飛んで肺動脈をつまらせると肺塞栓になりますので、深部静脈血栓症と肺塞栓は同時にみられることもあります。

（参考）飛行機内では、足をあまり動かさないことも関連して、深部静脈血栓症や肺塞栓をきたすことがあることが知られており、エコノミークラス症

候群やロングフライト血栓症などということもあります。

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。

<http://www.info.pmda.go.jp/>

